

* 子ども防災博士意見発表の部 *

最優秀賞 「自分の住んでいる地域の災害を予測して」

岩出小学校 橋本 七穂さん



私は、一年生の時、海のない奈良県から、この和歌山県に引越しをして来ました。私の住んでいる岩出市にはありませんが、少し車で行くと黄色い津波注意の標識をよく見ます。黄色の看板に鹿の絵が描かれた標識はよく知っていましたが、波の絵が描かれた物は私には珍しく、父に聞くと、

「津波に注意しなさい、という標識だよ。和歌山には、もうすぐ南海トラフという大きな地震が来ると言われているんだよ。」

と、教えてくれました。そして、父の体験を話してくれました。

父は、東日本大震災を東京で体験しています。ちょうど地震があった時、出張へ行っていたからです。地震後、バス停には長い列ができ、一番前に並んでいる人は、

「二時間以上待っていますが、その間に一回もバスが来ていません。」

と言ったそうです。そこで、父は列に並ぶことをあきらめて、東京に住む知り合いの人の家まで二時間歩いて行き、一晩泊めてもらったそうです。食べ物や飲み物は、スーパーでもコンビニでも売り切れだったそうです。

父の経験から私の家には、水や水を入れると食べられるご飯などを置いています。また、災害が起こったら、家族とどこで落ち合うのかも決めています。そして、父は、

「これから住む和歌山は海があるから、津波注意の標識がある所に来たら、高い所をチェックして逃げ場所を考えておくんだよ。」と、教えてくれました。

奈良の学校では、火災や、地震の避難訓練しかしませんでした。和歌山の学校では、学校の近くを流れる紀ノ川があふれ、堤防がくずれた場合を想定した洪水の避難訓練をしました。六年生の教室は三階なので、私達は教室で待機でした。でも、一～四年生の教室は、一階と二階なので、三階まで、避難してきました。また、同じ日に、NHKの「河川はんらん」に備えよう」という動画を見ました。その動画の中の実験で、もし、堤防がくずれたらどうなるか、というもの

がありました。まず、堤防から水があふれ、それから、一～二時間後には、堤防がくずれていました。私は、これを見て、一～二時間の間に、山などの高い所へ逃げた方が良いと思いました。そして、洪水でも津波でも、高い所に逃げる事は一緒だなと思いました。

私は、父の体験と学校での学習から、災害が起きた時の事を日頃から考え、

- 一、津波注意の標識や堤防がある場所へ行ったら高い場所を確認しておく。
- 二、家に備蓄をしっかりとしておく。
- 三、家族で災害が起きた時の事を話し合っておく。

などが大切だと思いました。

皆さんは、自分の地域でどのような災害が起こるか予測できていますか。ぜひ、また、調べて、そのために、どうしたら良いのかを考えてみて下さい。